

チェコ日本語作文コンテストにおける試み

栗原幸子（カレル大学）
sakurihara@gmail.com

【要約】

チェコでは、毎年開催される日本語弁論大会とともに、2006年より日本語作文コンテストを実施している。2012年の作文コンテストからは、国際交流基金が開発しているJFスタンダードを活用した評価表が導入され、日本語教師による審査とともに、日本語教師以外の方々にも一般審査員として審査に参加していただけるようになり、2014年で3年目を迎えた。本稿は、チェコ日本語教師会が実施している日本語作文コンテストにおける、作文評価の取り組みの報告である。

1. はじめに

チェコの日本語弁論大会は、2014年に第38回を迎えた歴史ある弁論大会である。チェコでは、弁論大会と合わせて、日本語作文コンテストを実施しており、弁論大会と同じく、チェコ国内の日本語学習者たちが自らの日常の学習成果を披露し、学習者の意欲向上につなげられる場となっている。本稿では、2014年に三回目を迎えた新しい作文コンテスト審査の報告を行う。

なお、本稿の文責はもちろん筆者にあるが、日本語教育連絡会議における発表と本稿は、筆者の前任である森田衛 JF 日本語専門家を含め、チェコ日本語教師会全体の取り組みの報告である。

2. 日本語作文コンテスト

第38回チェコ日本語弁論大会は、2014年4月12日にプラハで開催された。初級の部と中上級の部の2つの部門に分かれており、初級の部への参加の目安は、学習時間300時間未満（「みんなの日本語初級」「げんきI, II」終了程度まで）で、それ以上が中上級の部に参加する。また、どちらの部も日本での滞在期間が6か月以上の学習者、同部門で優勝経験のある学習者は参加資格がない。

2006年からチェコでは、日本語弁論大会に合わせて、日本語作文コンテストが実施されている。日本語作文コンテストは、「人前で話すのは苦手だが、文章で自己表現をしたいという学習者のニーズに応え」（森田 2013）開催されることとなり、弁論大会と同じく、初級の部と中上級の部に分かれている。各部門への参加資格は、弁論大会の基準に準ずるが、作文コンテストへの参加には日本の滞在経験の長さを問わないこととしている。作文コンテストの入賞者は、弁論大会当日に、弁論大会の入賞者と合わせて、表彰を受ける。

2014年日本語作文コンテストは、以下のような流れで行われた。

2013年11月 教師会にて、作文テーマ決定

2014年1月 作文募集開始

3月中旬 作文応募締切 → 審査開始

3月末 審査締切 → 集計

2-1. テーマ

作文コンテストのテーマは、教師会メンバーから事前にアイデアを募ったうえで、教師会の話し合いで決定される。2014年作文コンテストのテーマは、2013年11月に開かれたチェコ日本語教師会の月例会で決定された。その結果、2014年のテーマは、初級・中上級ともに「うそ」となった。

作文コンテストの参加者募集の際に、募集要項に記載された文言は下の通りであり、こちらには記載しないが、実際の募集要項にはそれぞれチェコ語訳もつけられている。2013年日本語作文コンテストには、初級の部に10名、中上級の部に9名、合計19名の学習者が参加した。

初級

「うそ」についての自分の考えを、読み手にわかりやすく表現する。

字数 400字から600字まで

中上級

「うそ」について、自分の考えを論理的に表現して、読み手に深い感銘や示唆を与える。

字数 800字から1200字まで

2-2. 審査

作文コンテストの審査は、2011年まで、チェコ国内の日本語教師有志が担当していた。しかし、森田(2013)によると、チェコ国内の日本語教師数そのものも決して多くはないことから、審査員の数がかなり限られてしまうこと、そして、作文コンテストも弁論大会と同様、日頃の学習成果の発表、意欲向上を目的としている以上、学習者が意欲的に取り組んだ作文に限られた数の人にしか読まれなことは、多くの観客の前で発表することになる弁論大会と比べてバランスを欠くことから、2012年からは、日本語教師以外の一般の方々にも審査に参加していただくことで、より多くの人が審査員として参加できる方法を取り入れることとなった。

一般審査員の公募は、チェコ日本人会、プラハ日本人学校、教師会メンバーの知り合いなど、主にチェコ在住の日本人に広報をして、協力をお願いした。その結果、2014年は、一般審査員19名、日本語教師審査員17名の合計36名で審査をすることができた。ただし、日本語教師審査員、一般審査員ともに、チェコ在住であること、日本語母語話者であることは条件ではなく、日本、中国、韓国などチェコ国外からも審査にご協力いただいた。審査員の方々への、応募者の作文や評価シートの配布、返送、結果報告などは、すべてEメールでのやり取りになっている。

2-3. 評価表の作成

一般審査を導入するにあたっては、日本語教育を専門としない方にも評価しやすい評価表が必要となる。このため、森田衛氏を中心に、チェコ日本語教師会では、国際交流基金のJF日本語教育スタンダード(以下JFスタンダード)を評価表に取り入れ、多くの方が評価に参加できるような簡便な評価方法を作成することにした。

評価表の作成に関しては、森田(2013)に詳しく記載されているが、初級をA2レベル、中上級をB2レベルと位置づけ、JFスタンダード、CEFRから以下のCan-doの記述を参考に作られている。

森田 (2013)より

初級

- ・自分自身や家族、仕事、趣味など、基本的なことについての自己紹介文を短い簡単な文でブログ（社内報）などに書くことができる。(JF・A2)
- ・ホームステイ中の発見や失敗などの出来事を短い簡単な文でブログなどに書くことができる。(JF・A2)
- ・出来事、過去の活動、個人的な経験の描写を短い文で書くことができる。(CEFR・A2.2)

中上級

- ・自分が関心がある専門分野の多様な話題について、明瞭で詳しいテキストを書くことができる。いろいろな情報や議論を、評価した上で書くことができる。(JF・B2)
- ・実際、もしくは想像上の出来事や経験について、複数の考え方を相互に関連づけ、当該ジャンルの書記習慣に従って、明瞭かつ詳細に記述文を書くことができる。(CEFR・B2.2)

2-4. 評価項目

2012年に、一般審査を導入してからの過去3年間の一般審査員、日本語教師審査員の評価項目は表1の通りである。

表1 一般審査と日本語教師審査の評価項目

	一般審査	日本語教師審査
2012年	内容	内容、構成、文法、語彙、漢字・表記
2013年	内容	内容
2014年	内容	内容、文法・語彙

2012年の作文コンテストでは、一般審査は「内容」のみを審査、日本語教師審査は、それ以前の作文コンテストの評価を踏襲し、内容、構成、文法、語彙、漢字・表記の5つの観点から審査を行った。その後、日本語教師審査の5つの評価項目は、コミュニケーションを重視した評価にはあまりつながっていないのではという判断から、2013年の作文コンテストでは、一般審査員、日本語教師審査員ともに「内容」のみの審査を実施した。

一般審査を取り入れてから3年目を迎えた2014年の作文コンテスト審査では、これまでの評価を踏まえた教師会での事前の話し合いの中で、教師会メンバーの中から、「日本語教師審査員は内容のみではなく、やはり言語形式も評価対象とした方が良いのでは」、また「日本語教師審査員は言語形式も審査項目に加えたほうが審査しやすいのではないか」という声があがり、2014年の日本語教師審査には、「内容」に加えて、「文法・語彙」の評価項目を入れることになった。表記に関しては、参加者たちはコンピュータで作文を書き、応募は電子媒体ですることから、変換、オートコレクトなどの機能から表記を評価項目にする必要はないだろうという判断からはずされた。

一般審査員は、2014年も過去2年間と同様に、「内容」に関する評価のみを行い、日本語教師審査員は、「内容」と「文法・語彙」の2つの側面から評価を実施した。2014年日本語作文コンテストの

評価シートは、図1から図4のようになっている。

2014年 チェコ作文コンテスト 一般審査 評価シート【初級の部】 テーマ:うそ					評価者氏名:
目標 【初級の部】「うそ」についての自分の考えを、読み手にわかりやすく表現する。					
評価	1	2	3	4	
	がんばって!	もう少し!	できた!	すばらしい!	
内容	うそについての筆者の考えがほとんど理解できない。	説得力は弱い、うそについての筆者の考えがある程度理解できる。	うそについての筆者の考えがうまく表現されている。	うそについて筆者の考えが、具体例を交えるなど、明確に表現できている。筆者の個性を感じさせる作文になっている。	コメント(もしあればお願いします)
例			○		やや単純だが、筆者の考えはよくわかる。
Z1					

図1 2014年日本語作文コンテスト評価シート 初級の部 一般審査

2014年 チェコ作文コンテスト 日本語教師審査 評価シート【初級の部】 テーマ:うそ					評価者氏名:					
目標 【初級の部】「うそ」についての自分の考えを、読み手にわかりやすく表現する。										
評価	1	2	3	4	評価	1	2	3	4	
	がんばって!	もう少し!	できた!	すばらしい!		がんばって!	もう少し!	できた!	すばらしい!	
内容	うそについての筆者の考えがほとんど理解できない。	説得力は弱い、うそについての筆者の考えがある程度理解できる。	うそについての筆者の考えがうまく表現されている。	うそについて筆者の考えが、具体例を交えるなど、明確に表現できている。筆者の個性を感じさせる作文になっている。	文法・語い	文法・語いの間違いが多く、筆者の考えが理解できない。	文法や語彙の間違いはかなりあるが、読み手が推測すれば、筆者の考えが何とか理解できる。	初級レベルの文法や語彙がほぼ正しく使える。ただし、同じような文型・語いの繰り返しが多い。	初級レベルの文法や語彙は正しく使える。かつ多様な表現や語彙を使う意図が感じられる。	コメント(もしあればお願いします)
例			○					○		やや単純だが、筆者の考えはよくわかる。
Z1					Z1					

図2 2014年日本語作文コンテスト評価シート 初級の部 日本語教師審査

2014年 チェコ作文コンテスト 一般審査用 評価シート【中上級の部】 テーマ:うそ					評価者氏名:
目標 【中上級の部】「うそ」について、自分の考えを論理的に表現し、読み手に深い感銘や示唆を与える。					
評価	1	2	3	4	
	がんばって!	もう少し!	できた!	すばらしい!	
内容	うそについての筆者の考えがほとんど理解できない。	説得力は弱い、うそについての筆者の考えがある程度理解できる。	うそについての筆者の考えがうまく表現されている。	うそについて筆者の考えが、具体例を交えるなど、明確に表現できている。読み手に感銘を与えたり、示唆に富む内容も加えられている。	コメント(もしあればお願いします)
例				○	筆者の経験がうまく描写されており、説得力もある。
P1					

図3 2014年日本語作文コンテスト評価シート 中上級の部 一般審査

2014年 チェコ作文コンテスト 日本語教師審査用 評価シート【中上級の部】 テーマ:うそ					評価者氏名:					
目標 【中上級の部】「うそ」について、自分の考えを論理的に表現し、読み手に深い感銘や示唆を与える。										
評価	1	2	3	4	評価	1	2	3	4	
	がんばって!	もう少し!	できた!	すばらしい!		がんばって!	もう少し!	できた!	すばらしい!	
内容	うそについての筆者の考えがほとんど理解できない。	説得力は弱い、うそについての筆者の考えがある程度理解できる。	うそについての筆者の考えがうまく表現されている。	うそについて筆者の考えが、具体例を交えるなど、明確に表現できている。読み手に感銘を与えたり、示唆に富む内容も加えられている。	文法・語い	初級レベルの文法・語いを超えていない。	中級レベルの文法・語いが使われているが、広がりや多様な表現をとおうとする努力が見られる。	中上級レベルの文法・語い、ほぼ正しく使われており、多様な表現をとおうとする努力が見られる。	説得力を持って、自らの考えを表現するのに適切な文法・語い、正しく且つ効果的に使われている。	コメント(もしあればお願いします)
例				○					○	筆者の経験がうまく描写されており、意見にも大変説得力がある。
P1					P1					

図4 2014年日本語作文コンテスト評価シート 中上級の部 日本語教師審査

各作文につき、一般審査員は1から4点、日本語教師審査員は2から8点(1~4x2項目)の持ち点となり、担当者で参加者ごとに審査員総数36名の合計点をだし、合計点から順位をつけて、入賞者を決定した。

2-5. 審査員へのアンケート

評価シートの中では、評価と各作文へのコメントを記入していただくともに、簡単なアンケートを実施した。質問は以下の2つで、自由回答の形式である。

1. 日本語学習者が書いた作文を読んでどう思いましたか。
2. 評価方法に関して、改善した方が良いと思うところがありましたか。

ここに、審査員の方々から寄せられたコメントの一部を掲載する。

質問1. 「学習者の作文を読んでどう思いましたか。」

- ・日本の同年代がこんな言い回しや表現を知っているだろうか、と思うほどボキャブラリー豊かで驚きました。「嘘」について諺や文化、社会情勢をふまえて考えている内容と日本人の書く「起承転結」とは異なり、型にとらわれていない書き方を面白く感じ、楽しく読ませていただきました。(一般)
- ・多くの方が具体的なエピソードを盛り込み、漢字やカタカナがきちんと使って書いていて、思っていた以上にレベルが高かったです。また、書かれた内容からチェコの方の日常の一端を知ることができて、とても興味深かったです。(一般)
- ・どの作文からも一生懸命に日本語を学んでいることがよく伝わってきました。順序立てて文章を構成していたり、物語にしてみたり、いろいろと表現に工夫が見られ楽しく読むことができました。(一般)
- ・筆者の考えの具体例が、王道の自己体験だけにとどまらず、物語、想像、歴史などいろいろな方面に広がっていて面白かった。また中上級は本や漫画にそのまま出てきそうな表現を見つけ文化との接点が見え興味深かった。(日本語教師)

質問2. 「評価方法に関して、改善した方が良いと思うところがありましたか。」

- ・4段階のシンプルな評価なので、一般審査で参加しやすいです。(一般)
- ・日本語での作文コンテストということからして、内容の説得力よりは、日本語で書く能力がどうであるかが気になりました。とはいえ、評価方法の指示に従い日本語能力には注目しないで審査しました。(日本語に問題がある部分はこちらで見当をつけて文章を理解しました。)それでも日本語が普段は聞かれない環境にいる生徒さんたちが、こんなにも日本語を使えるということに驚きました。(一般)
- ・改善した方が良いと思うところはありませんが、評価は難しかったです。特に初級の部では、内容と日本語(適切であるか等)のバランスが様々でずいぶん迷いました。(一般)
- ・筆者の年齢と性別がわかった方が、背景が想像しやすく、評価しやすいと思います。(一般)
- ・内容が面白いという事と、表現や字の間違いというものを一緒に審査するのは少し難しいと思います。別々の基準で審査しても良いかと思います。(でもあまり細かい基準を設けないで、読むことを楽しみたいという気持ちもあります…。)(一般)
- ・「嘘」についての筆者の考え、という目標評価に従うと、嘘に関連することのみを書いた応募者の評価がかなり低くなります。作文応募の際に、目標も記載されていたのであれば問題ないと思いましたが、そのあたりが定かでなく、評価に多少の不安を感じています。(日本語教

師)

・表現方法、論点がかなりバラエティに富んでいるので、「説得力がある」「感銘を受ける」かどうかは、内容、文法語彙とは別に、「面白さ」としての付加点とした方が、それぞれの個性を尊重できるのではないかと思う。(日本語教師)

2-6. フィードバック

作文コンテスト終了後には、各参加者にフィードバックを実施している。参加者たちは、本コンテストに応募してきた時点で、高い学習意欲を持った日本語学習者であると判断できるが、フィードバックの目的は、学習者の意欲に応え、さらなる意欲向上につなげることであり、フィードバックの方法に関しても、教師系メンバーで検討を重ねた。2014年のフィードバックの手順は以下の通りである。

- 1) 一般審査員、日本語教師審査員の内容の評価、日本語教師審査員の文法・語彙の評価の平均を出し、その値を%にする。
- 2) それぞれの審査員からのコメントを整理して、まとめる。このフィードバックは、学習意欲向上を目的としているため、「意味がわからない」「理解できない」などの意欲をそぐ可能性がある否定的なコメントは除外する。
- 3) 参加者の担当教師が応募作文に訂正を加える。
- 4) 1), 2), 3)をまとめて、参加者の担当教師から、それぞれの参加者に直接説明を加えながら、フィードバックを行う。

筆者もカレル大学からの参加者にフィードバックを行ったが、参加者の担当教師から、直接説明を加えながらのフィードバックは、メールの添付書類だけのフィードバックとは当然異なり、参加者にとって、理解しやすく、受け入れやすいものであったと感じられる。

3. 考察

3-1. 一般審査と日本語教師審査の審査項目

アンケートに寄せられた回答(上記の質問2)を見ると、一般審査員の方々から、「内容の説得力よりは、日本語で書く能力がどうであるかが気になった」「内容が面白いということと、表現や字の間違いというものを一緒に審査するのは難しい」など、内容だけの審査の難しさがあげられた。このようなコメントの理由の一つとして、一般審査員の方々に、日本語教師審査員は、「内容」だけでなく、「文法・語彙」も審査しているということを説明していなかったことも考えられるだろう。また、一般審査員の中から、内容だけではなく、言語形式も評価したいという希望が感じられるコメントもあった。まとめでも述べるが、この点を踏まえ、2015年の作文コンテストでは、一般審査員も、希望者は「内容」「文法・語彙」の両面を審査することができるようにする予定である。

3-2. テーマと評価シート

今回の作文コンテストでは、「うそ」というテーマの独自性から、「うそをつくことや、うそをつかれることに対する自分の意見や考え」といった論理的な構成の文章だけではなく、「いろいろなうそをついた人の話」といった物語のスタイルで書かれたものも見られた。このように作文の内容や構成に

幅が出てくることに関しては、テーマを決定した時点から教師会内では予想しており、それに対応した評価に関しても、教師会メンバーの中ではある程度の合意や理解があったと思われる。ただ、評価シートの中の、それぞれの作文へのコメントを見ると、教師会メンバー以外の審査員から、「筆者の考え」「論理的に表現し」といった評価シートの文言が、物語の評価には必ずしもつながらないようなコメントが記入されていたこともあった。これはもちろん評価シートを作成したこちらの問題であり、今後は評価シートに記載されている「目標」や評価の文言も、テーマに合わせた十分な検討が必要とされるし、審査員の方々への説明も丁寧にしていく必要がある。

4. まとめ

日本語作文コンテストで一般審査を開始して今回で3年目を迎えた。チェコ国内の日本語学習者の作文を読むことで、チェコ人の考え方や、チェコの日本語学習者のことを知ることができると、一般審査員の方々からも好評であり、2015年も一般審査、日本語教育審査双方で続けていく方針である。

審査項目、評価シートに関しては、これまでの経験と反省を生かして、よりよい審査方法を求めていく。上に述べたように、2014年の作文コンテストの評価表では、「うそ」というテーマから作られる作文の幅に、評価表の文言が十分対応できていないという問題が見られた。この反省をもとに、次回以降の作文コンテストでは、目標の記述、そして評価シートの文言もテーマに合わせてしっかり検討していく必要がある。

一般審査・日本語教師審査のそれぞれの評価項目に関して、日本語教育連絡会議での発表当日も貴重なアドバイスをいただいた。教師会での話し合いで、2015年は新しい試みとして、日本語教師審査員は昨年と同様に、「内容」と「文法・語彙」の2項目を審査し、一般審査員は、一般審査員の応募の際に、「内容」のみから審査を行う、または、「内容」と「文法・語彙」の両方から審査を行う、の2つの選択肢から選んでいただいて、審査をお願いするという事になった。

チェコで日本語を学ぶ学習者の意欲向上という目的につながるよう、わかりやすく、評価しやすい審査表の作成も含めて、今後も検討を重ねていきたい。

参考文献

国際交流基金 (2012) 「JF 日本語教育スタンダード 2010 [第二版]」

国際交流基金 (2012) 「JF 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック [第二版]」

森田衛 (2013) 「JF 日本語教育スタンダードを活用した作文評価の取り組み」

『中東欧日本語教育研修会 2013 報告書』国際交流基金ブダペスト日本文化センター

国際交流基金 「世界の日本語教育の現場から」

<<https://www.jpf.go.jp/j/japanese/dispatch/voice/touou/czech/2012/report01.html>>

国際交流基金 「みんなの Can-do サイト」 <<http://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>>